

男女共生講演会



～女(ひと)と男(ひと)の ためのライフプラン～

講師 遠藤泰子さん(フリーアナウンサー)

7月12日、コンパルホールにおいてラジオ番組「永六輔の誰かとどこかで」等でおなじみのベテランアナウンサー遠藤泰子さんに講演していただきました。講演会の一部をご紹介します。

『コミュニケーション
なくして男女共生なし』

世の中で一番大事なのは、ひとひとのコミュニケーション。コミュニケーションがなくなったら男女共生はできません。

会話をするとき、たまには聞き手になつてみることを心がけてみてください。ひとの話聞いてみるっていいのは、「聞くっていう楽しさや自分の引き出しを増やす」ってことになると思うので、是非一度試しにやってみて頂いたらいいかなと思います。

『言葉は、口から出た心』

「言」という字を語源辞典で調べてみると、「言」の口の部分は、心という字が転じたものと書いてありました。つまり「言葉に託された心が、口から出ている」のだと辞典から教わった気がします。だから温かい心で話せば温かい物言いになるし、刺々(とげとげ)しい心で話せば刺々(とげとげ)しい物言いになるんだなと気づきました。

「言葉は、一度人の心に入っちゃたら、どんな大きな消しゴムをもつてしても消せないんですよ」

『救われた二通の手紙』

二十年前、私は飲酒運転により顔を縦に七針と五針を縫うという交通事故を起こしました。

その頃は放送という仕事が面白くなってきて頑張っていた時でもありました。しかしラジオやテレビの番組も降板、その時友人だと思っていた人達が手の平を返す様に去っていききました。

そんな地獄に追い詰められた時、二通の手紙が舞い込みました。この中の「文字と言葉」が自分を救ってくれたのです。一通は、永六輔さんの手紙「これだけ嫌な事が続けば泰子君も少しはいい女になれることでしょう。元気になったら皆で旅しようね」涙で読めませんでした。永さんは私を見捨てなかつたんだ、有り難いなあ・・・と思いました。もう一通はテレビの現場で仕事をしてきた女性の手紙「この際、とことん地獄を見てきて下さい。貴女はもう一度マイクの前に戻れる人だと信じています」と結んでありました。最後の一行の言葉を読んだ時、肩の力が抜けて開き直れたのです。何とかなる、いつか立ち直れると思える様になりました。それから自分道は自分でしか歩けないと思う様になりました。

手紙を下さった人の温かさ・・・人間の「人の心に与える言葉の力」は大きいなあ・・・と思います。この事以来、私も人にかける言葉や人間関係を見直すようになりました。二度とない人生、アンテナだけはピカピカにして、一日一日を大事に生きていきましょう。

来場者の感想

人との接し方の大切さを学べた。人とのコミュニケーションが希薄になってきている今の時代、遠藤泰子さんの講演を聞いて、しみじみ大切だと感じた。講演内容もとても楽しく、わかりやすく良かった。素敵なお話をありがとうございました。言葉が大事にすることの大切さ。女も男も言葉のコミュニケーションが重要。



ギター合奏団ロス・マルテス

開演前の一時を優しく奏でるギター演奏に心癒されました。